つながる広がる 人・モノ・文化 地域物語

コザまち社中（沖縄市）

民間と行政をつなぐ“接着剤”として
多くの人を巻き込んでコザを元気に！

新たなマーケット作りをめざす「知花花織」の新商品

行政出身者だからわかるNPOの必要性

伝統芸能のエイサーや民謡、ロックなどが盛んな「音楽・芸能のまち」として知られる沖縄市。一方で中心市街地の衰退という課題も抱えています。

「行政だけで地域の課題に向き合うのは限界がある。民間と行政をつなぎ、柔軟且つスピーディーにまちづくりを手伝いたい」と語る照屋幹夫さん（まちづくりNPOコザまち社中理事長）。沖縄市職員時代、予算や職員数が限られる行政業務の受け皿となるアウトソーシングの必要性を痛感。営利目的ではなく、非営利・中立の受け皿が重要だと考え、平成二十年にNPO法人を設立。行政と地域をつなぎ地元伝統工芸や音楽産業の人材育成の支援、空き店舗を活用した商店街の活性化などを中心に活動しています。

世代間の連携、コザの音楽で人材育成

副理事長の豊田益市さんはミュージックバーのオーナー。経営者の立場から、活気を失う商店街を「どうにかしなければ」と商店街主体のイベントを開催してきました。

「今まですべて個々で活動していたので効果が弱く、コザの魅力を充分にアピールできなかった。情報を一元化して発信することで、商店街がつながりはじめ、地域のポテンシャルが見えてきた」と活動の手ごたえを実感。

また、若手ミュージシャンの育成にも人一倍熱心です。平成十八年には「音楽の本場を見せたい」と、若手を連れてアメリカ・ニューオリンズを視察。現在も模合仲間らと資金造成を続け、今年も視察ツアーを計画中です。

専門の視点を生かしたまちづくり

理事の福本康治さんは広告代理店勤務の経験を生かし、沖縄市の伝統工芸「知花花織」のブランディングやマーケティングを活用した商品開発、人材育成を担当。

「魅力的なデザインや付加価値のある商品を開発し、新たなマーケットを作りたい」。その取り組みとして、知花花織の新しいデザインを公募し、カジュアルな織りを施したスニーカーやベルトの試作品を発表。

「コザまち社中のメンバーは人材も主張もバラエティに富んでいておもしろい！」と笑うのは、事務局で広報や企画を担当する由利充翠（みつあき）さん。唯一の県外出身者で大学時代からまちづくりに専門的に携わり、個性派揃いのメンバーをまとめています。

左から、福本康治さん、豊田益市さん、照屋幹夫さん、由利充翠さん

「胡屋地区リノベーション事業」現在（左）と完成イメージ図（右）

来年も開催される「musix」沖縄国際アジア音楽祭（2010年の様子）

まちに新しい生命を吹き込みたい！

コザまち社中は、沖縄県初の内閣総理大臣認定となる「沖縄市中心市街地活性化基本計画」の協議会メンバーとして、市民・事業者・商工会議所などと官民一体で活性化に取り組んでいます。基本計画の柱である「胡屋地区リノベーション事業」では、シャッターの閉まった古い店舗を改修し、チャレンジショップやものづくり工房として提供。店舗づくりや商店主の育成を支援し、地区全体の魅力を創出する予定。「成功すれば他市町村でも活用できるモデルケースになる」と照屋さんをはじめNPOメンバーも期待を寄せます。

「若者、地元の人以外をいかに巻き込むか」とまちづくりのポイントを語る豊田さん。「現場に根ざし、成功するまでやり続けることが大事」と由利さん。「行政の意識を変えて、もっと住みよいまちにしたい」と照屋さん。個性はいろいろでも想いはひとつにつながっていました。

お問い合わせ
まちづくりNPOコザまち社中
電話：098-989-0905

沖縄県広報誌
平成22年10月1日発行第34巻10号通巻421号
美ら島沖縄
企画・編集・発行　沖縄県知事公室広報課
〒900-8570　沖縄県那覇市泉崎1-2-2
TEL.098-866-2020
● 表紙 写真・島袋常貴
● 表紙 撮影協力・与那原町立あかぎ児童館こどもエコクラブ

アンケート
「美ら島沖縄」の感想をお聞かせください。
パソコンはこちら
http://www.pref.okinawa.jp/churahome/

編集後記

最近気付いた携帯電話の万歩計機能。専用アプリを使うと、消費カロリーはもちろん通算歩数をエコ活動に換算してくれます。現在、通算90万歩達成し、82.8kgのCO_2削減、ガソリン36ℓ削減に貢献。毎日てくてく歩いてエコ活動。美容健康にもおすすめです。(momo)

よりよい広報誌づくりのため、県広報課のホームページにて、アンケートを実施しています。本誌の内容や配布場所などについてのご意見・ご感想をお待ちしています。御協力のほどよろしくお願いします。（トコトコアルキ）